

相互供養

生かし 生かされて 生きる

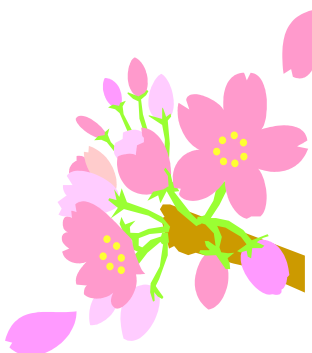
供養といえは法事の後のご馳走を連想する。物に心を添えて仏さまにお供えし、よろこんでいただく。つまり人に喜んで貰うために他に尽くすことに他ならない。

大きな魚は小さな魚を、小さな魚はもつと小さな魚を食べて生きていくように自然界の仕組みは、互いに犠牲を提供し合って生存を保持しています。

日頃どんなにいがみ合い憎み合っている人でも、いざ「火事」という時には、怨親を越えて真先に火を消してくれるかも知れないし、電車の中で具合が悪くなれば見知らずの、前に立っている人が助けてくれるのではないだろうか。

人間が生きていることはつまり、多くの人や物に生かされていることで、自分を生かし他を生かし、人に生かされてこそ生きていく自分を発見して、他に尽くす生き方に徹して生きたいものです。

高野山伝道はがき通信より



四月八日は花祭りです

降誕会・四月八日は釈尊誕生の日です。花祭り、灌仏会、仏生会、などともいいます。四月八日には、全国の寺院で花祭りが行なわれます。

*美しい花で飾った「花御堂」が設けられます。お生まれになったとき、右手で天を、左手で地を指さし「天上天下、唯我独尊」と叫ばれ、また、そのとき甘い香り豊かな雨が静かに降ったとも言われています。
*誕生仏に「甘茶」がかけられるのはこの伝説に源があります。



一口法話

甘茶の由来

短くが一生、
一刻を惜しみたことか

*甘茶は、ヤマアジサイの変種で葉を蒸してもみ、乾燥したものを煎じた飲料です。からだに、たいへんよいものです。
甘茶を子供の頭につけると、丈夫に育つと信じられています。家中で飲んで延命息災を願います。
*長柄の茶杓で、小さな誕生仏に甘茶を注ぎながら、仏恩に感謝し、子供の成長を祈る清らかな心が、美しい慈悲の心の行事となります。

空海の言葉

シリーズ

だいべん とう
大弁は訥なるがごとし

ほんとうの雄弁家は口べたである

言葉というものは不思議なものです。相手を説得しようとして、立て板に水を流すようにしゃべりまくっても、相手には通じません。

アナウンサーは「明るく、正しく、わかりやすく」をモットーにして話しているようですが、聞いているほうは耳に快く響くだけで無味乾燥、何の味もないありません。同じように、テレビのおしゃべりタレントが口角泡を飛ばしてしゃべっても、視聴者は知らん顔です。

真心のこもった言葉は、立て板に水のようなおしゃべりからは出てきません。むしろ人は感動すると、ことばが出ないものです。

